

林 大 だ よ り



第 73 号 平成 29 年 3 月 17 日

長野県林業大学校翌松会



第37回 卒 業 式



卒業証書授与



翌松会主催 謝恩会

羽ばたけ林大生

翌松会 会長 大野 恭裕



早いもので子供が入学してから二年が経ち、いよいよ卒業していきます。林大生たちはそれぞれの目標を持って入学し、多くの思い出を胸に卒業していくと思います。そんな成長した息子・娘たちに親も目を細めながら見つめています。

卒業後、社会に出て行くとこれからは自分でいろいろなことをやらなければなりません。多くのことを親にやらせてもらったことに気づくでしょう。車の任意保険、健康保険、年金、携帯電話の契約、日常生活でもアパート代の支払い、光熱費の支払い、食事の用意も自分でしなければなりません。車のローンも今後は自分ひとりで契約することができません。そんな重要なことを二十歳になったと

んでできるようになるので成人というものは難しいものです。それぞれの決め事をやっていいものかどうかは一人では判断に迷うことがあると思います。そんなときは是非、親に相談してください。親はさまざまな人生経験を積んでいるのできっと良いアドバイスをしてくれるでしょう。

今度は会社という組織に属する皆さんは親とも先生とも違う大人に接することになります。そこにはまた違ったルールが存在していると思います。早くそのルールに慣れなければなりません。よく言われる「ほうれんそう」（報告・連絡・相談の頭文字）がその例でしょう。毎日が勉強で常に新しい発見に不安と期待があると思いますが若い力で乗り切ってください。苦しいときは、同じ釜の飯を食べた林大の仲間たちを思い出してください。きっと勇気や自信が出て来ることでしょう。これから社会に出て行く林大生も世間の怖さを経験する

かもしれません。いろいろな失敗もあると思います。けれど世の中捨てたものではありません。自分を成長させてくれるさまざまな出会いが待っています。

失敗を恐れるな。さあ羽ばたけ林大生。

基本の「き」

長野県林業大学校 校長 山口 勝也



林業に関わる仕事に就くにつけ、身に付けておきたい技術、知識は山ほどある。当然本校でも二年間の限られた時間の中で伝えるべき情報を厳選し講義実習を行っており、学生にはそのすべてに全身全霊をもって取り組んで欲しいが、中でも基本中の基本が樹木学だ。

かつての針葉樹による拡大造林が華やかなりし頃と違い、現在は天然林育成、針広



放課後（かるたとり）

混交林化といった単語が当たり前に使われる時代になった。自然の力をうまく利用して、より豊かな森林を育てていくために、その地域の山に生育しているより多くの樹木を熟知していることが望まれる。

その入り口として木の名前が重要で、それさえ判れば対象木の詳細を調べる方法はいくらでもある。その山で普通に成長していく木か、どのくらい大きくなるか、斜面を抑える力は、寿命は、材質は、用途はあるか、きれいな花は咲くか、動物の好む実がなるか、等々特性が判れば、作っていききたい森林の姿に応じて

その木をどのように扱っていけば良いのかも決まってくる。森林を育て、林業を営む上で一番の基礎となる知識、技術の一つだ。

本校の樹木学は一年生で学ぶ。できるだけ多くの樹木を見分ける力をつけるのが主眼だ。そのために学生には百種類の樹木標本（押し葉）の作成が課せられる。採取してきた枝を新聞紙に挟み重石をす。枝の水分を新聞紙に吸収させるとともに、標本としての形を整えていく。標本作りはこまめに新聞紙を取り替え、スムーズに水分を抜いていくことが肝要だ。毎日取り替えば十日で押し葉は仕上がるが、さぼると茶色に変色し、カビが生え、標本とは呼べない代物になってしまう。こうなれば作り直しだ。

一月になると、学生達是一年間苦労して作り貯めた標本を製本し、標本ごとに和名、学名などのカードを貼り付け、担当講師のチェックを受ける。出来栄えは人それぞれだが、大切なのは実際の樹木を判別できるかどうかだ。新二年生諸君にはもう一年間かけてしっかり力を身に付けてもらいたい。

林大生に期待すること

信州大学

山岳科学研究所長

泉山 茂之



ここを巣立ち、社会に出て行く皆さんには、林業大学校で培った現場主義の精神を貫き、日々を生きていただきたいと考えています。

今、私たちの郷土は、様々な問題に直面しています。地域の高齢化や人口減少、気候変動による豪雨、火山・地震などの災害の頻発など、何一つとして容易な問題はありません。しかしながら、私たちはこの風土で生き抜かなくてはならないのです。

多くの皆さんが、林業に関わる職業に就かれることでしょう。仮に林業に関わり、日々年々の時の流れが早く感じたとしても、向かいの山の変化を感じることは、決して多くはないことでしょう。しかし、山の空気に日々触れ合

で、小さな些細なことを見逃さない、そんな人間を目指してください。何かの問題に突き当たった時、現場に戻れば現場の中に答えがあるはずだからです。

私に関わる野生鳥獣被害の原因は、狩猟者の減少による野生鳥獣の増加、耕作放棄地の増加など様々な要因が指摘されています。しかし、何か

一つ二つの対策を実施しただけでは、大きな改善が認められないことが殆どです。その理由は、野生鳥獣害の問題が、農林業のあり方や中山間地の高齢化や人口減少など、さまざまな問題が複雑に絡み合っており、引き起こされているためです。

このため、被害を軽減させるためには、地域に合った対策をいくつも組み合わせるという考え方が必要です。農林業被害をゼロにする、のではなく予防する、そして被害をできる限り軽減する、という発想の転換が必要なのです。何かに突き当たった時、問題を解決するためには、現場主義からの柔軟な発想と、良いと思えることは何でも実施してみようという、前向きな思考が必要なのです。



10月 木望祭（寮祭）

林大生に期待したいこと

北信州森林組合

代表理事組合長

中山 稿一



森林林業を学ぶということは基本的に山が好きでなければ長く続ける事が出来ません。林業を取り巻く環境は生産木材流通いづれも厳しい品質管理、生産コストなど多くの改革をしなければ外国産に勝てる林業にはならないのかと思います。そうした中にある産業界にすべく、林大生の皆さんの能力に期待をしたいと思います。循環型資源として皆伐再造林が叫ばれて久しいが、林野庁、県が積極的にその採算性について検証をしていく時期に来ており、そこを乗り越えてこそ次が見えてくると思います。当組合も除伐、間伐、下草刈りなど技能を要する仕事が大半です。境界明確化事業にも積極的に取り組んだ結果、現状では

五千五百haはデータ化しており、組合員造林面積一万二千haに向けた経営計画も含め進めております。今後は、より精度の高い情報技術の研究を進め、信大、アジア航測KKと連携した「スマート精密林業」の研究、LSを活用した森林管理業務の実践検証、スマート精密林業のマニュアル作成にも取り組みますが若い皆さんの力が是非必要になってきます。森林は公益的機能、木材産業として山村振興の要素を持ち合わせており掛け替えのない地球の財産でもあります。百年の体系をなすスパンの長い産業であるため五十年先を見据えた取組みをしていかなければなりません。これらの難関を乗り越えて将来の林業があると思います。林大生には長野県林業発展のため大きく羽ばたいて頂きたいと思いますが、学校で学んだ知識、技能を実践する職場として、多くの森林組合で皆さんを待っています。

学生の
ページあす
なる
の
呟

つぶやき

学校・寮生活から

林大生活

一年を終えて

1 学年
伊藤 涼太

林大に入ってから約一年が経ち、様々な行事や勉強に励んできました。私の中で林大に入ってから良かったと思うことが二つほどあります。一つ目は、寮生活の良さです。最初は先輩との同室ということに非常に不安でしたが、実際に生活してみると、面白い先輩や優しい先輩で、楽しく過ごすことができました。先輩だけでなく、同期とも非常に仲良くなることができました。寮生活は仲間とのコミュニケーションを取りやすいし、学校だけで会うのとは違い絆を深めやすいと思うので非常に良いものであると思います。

います。二つ目は、屋久島研修を行ったことです。今まで学校で県外へ修学旅行で出たことはあったのですが、大抵が都会の方で、自然に触れに行く行事はあまりなかったため、とても新鮮な気持ちでした。屋久島では、体力的に辛かったが無事縄文杉を見ることができ、また屋久島の林業事情や、森林の特徴など、こういったもののかを勉強することができました。まだあと一年あるので、これからの林業を支えていけるような人材になれるように頑張るとともに、後輩の見本になれる良い先輩になりたいと思います。



1 学年 10 月 樹木学実習（上松町）

林大一年間

1 学年
熊谷 克明

林業大学校に入学して、あと約一か月で一年になります。入学してすぐの屋久島研修から始まり、木望祭や伐木選手権など行事がたくさんあった一年間でした。また、木曽町の方々とつながりを

強くするための行事も多くありました。そのおかげで、多くの人と関わることでできました。それらの活動があったため、一年間がとても短く、早く過ぎていきました。それは周りの友達や先輩の存在があったからこそだと思います。

私は、入学して寮に住むということとはとても嫌でした。心配も多かったですが、ですが多くの先輩方が話しかけてくださり、緊張が無くなりました。また、寮内の雰囲気とても明るく居心地の良い場所でした。寮生活においても学校生活においても、先輩の存在はとても大きかったです。しかし、もう少しで二年生は卒業して今の一年生二十人と四月から入ってくる二十人で林大生活が再スタートします。我々二十人も、今の二年生に劣らない姿で林大生活を楽しんでいきたいです。

先輩に感謝

1 学年
下村 紗代

私が林業大学校に入学して、早いものでもう一年が過ぎようとしています。丁度一年前は絶対に受からないと不安に思っていました。が、今年先輩方のように『良い先輩』になれるか不安に思っています。

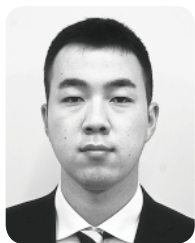


1 学年 11 月 法学（講堂）

この一年間を振り返ってみると、たくさんの方々に助けられながら過ごした一年だったと感じています。入寮日、初めて親元を離れ緊張している私に優しく話しかけてくれたり、体調を崩し寝込んでいた私を心配してくださったりと、先輩方には数え切れないほど良くいただきました。先輩方の卒業まであと約一ヶ月。この一ヶ月間で先輩方に少しでも恩返しをしたいと思っています。そして今度は私が入学してきた後輩達に、先輩よりも優しく、そして時に厳しい『良い先輩』になれるよう努力をしたいと思っています。そして現在のことだけでなく将来のことを見据え、自分の理想、そして夢に少しでも近づけるよう悔いのない林大での日々を過ごしていきたいと思っています。



1 学年 11 月 林業機械学実習（木曽町）



1 学年 辻 駿亮

一年間を振り返って

私が長野県林業大学校に入學してから、早くも一学年としての生活も終わりに近づいてきました。入学当初はなかなか林大生活に慣れることができませんでした。

林大生活は勉強だけではありませんでした。様々な行事があり、学校内に限らず地域のお祭りに参加もします。今後も遊んだり、アルバイトをしたりとさらに充実した林大生活を満喫したいと思います。特に関東出身の私には、木曽という自然に囲まれた環境の中での生活はとても新鮮です。是非、この地でしかできないことを沢山経験しようと思います。



1 学年 2 月 スキー教室（木祖村）

入学当初と比べて



1 学年 松田 晃治

私が長野県林業大学校に入學して一年が経ち、もうすぐ二年目を迎えようとしています。

この一年は、中高生時代よりも遙かに時間が短く感じ、あつという間だった。それほどこの学校の生活が充実し、より良いものだと感じているのだろう。この学校に入ってから私自身が変わったことも大いにある。

私は、入學して間もない頃はかなりの人見知りで、初対面の人と馴れ合うには時間がかかってしまい、そのせいで、当初私は周りとはあまり馴染めず孤独を感じていた。しかし、この学校の生活上では挨拶が頻繁に行われる。私は、挨拶することを意識して必ず自分から挨拶するように心掛けた。そのお陰か、挨拶を通じて話すことが増えるようになり、今では気を遣わず話せる人や遊びに誘ってくれる人を持つことができた。

入學してから現在にかけては、未だに人見知りで人前に立つと緊張してしまうが、まだ一年あるから大丈夫とポジティブに考えられている。短く感じる一年間だったが、二年の先輩から多くのことを学び、残りの一年を三十八期の皆と楽しく過ごしていきたい。



2学年 小口 寛代

一生もん

「おはよっ」と一番最初に声をかけるのが母でなく、友達になってもう二年が経ちます。将来設計もせず、制服を



2学年 10月 林業架線学実習（木曽町）

でき、何より木曽の地と人が大好きになりました。実家を離れて初めて気づく家族のありがたみ、いろんな経験を積んでこんな気持ちになれたのは、両親のお陰。ここまで無事に來たことをまずは両親に感謝したい。ありがとう。そして、先生方。何回あんなばんだんと呼ばれたことでしよう。勉強嫌いで騒がしい私を、進路や色々な場面で厳しくしながらも引っ張ってく

着崩しておちゃらけた高校生活を送っていた二年前、まさかこんな私が、作業服を着て山に行き木を伐るなんて想像もしていなかった。振り返れば林大生活の中で、林業の知識はもちろん沢山のものを得ることが



2学年 11月 木曽路探訪（南木曽町）

ださり、ありがとうございました。この二年間、林業を志す三十七期生みんなと同じご飯を食べ、語って、一緒に活動ができてすごく楽しかった。これからはそれぞれの道に進むけど、オジサン・オバサンになっても仲良くしたいね。本当にありがとう。ここへ来て大切な親友に出逢えたこと、林大で過ごした思い出は私の中で一生もんです。



2学年 多田 諒人

三十七期最高!!

この林大生活振り返ってみると、人との出会いに恵まれた二年間だったと思います。不安だらけで入寮したときも、インターンシップでも、

木曽町のお祭りでも校外研修でも、こんなにも人の温かさに触れることのできた二年間でした。何よりも同期に恵まれたことが一番です。テスト勉強をしているときに教えあったり、伐木選手権の準備だったり、深夜に宴をやって朝まで語り

沖繩出身・元製鉄業・既婚・子持ちのおっさん（二十七）から見た長野林大の良さ・果たすべき役割を述べます。



2学年 野本 浩幸

長野林大の良さ・果たすべき役割

合ったり…。誰かがピンチのときには、自分の得意分野であれば助け、不得意分野では助けられてととてもバランスのとれた仲間だと自負しています。入学したときは二年なんて長いなんて思っていました、みんなが卒業間近になると、みんなが思い出せるくらい濃厚で自分の中で大きな財産になりました。この二年間先輩方や後輩、木曽町の方々、先生方、三十七期の仲間には本当にご迷惑をおかけしました。そしてとても感謝しています。誠にありがとうございました。

一.「技術」の分かる技能者、「技能」を持つ技術者の育成：現場技能者が林業の理論・技術を理解して作業すること、また、行政職員やプランナーが、現場技能をしつかり理解した上で、森林・林業技術を担保することが重要と考えます。長野林大のカリキュラムは技術・技能のバランスが取れており、どのポジションに付くにしても勉強したことは役に立つと思います。

二.各地の事例を学べること：積極的に外に出て、各地の良い事例を自分の目で確かめ、その本質をつかんで、自分たちに当てはめることが大事です。授業外でも、学生の立場を活かして、県内外各地で勉強することができました。

三.長野県の林業に携わる仲間とのつながり：林大の最大の良さは、卒業生の多くが長野県内の林業に関する職につくため、一生の相談相手や商売仲間ができることだと思います。これから、みんなで長野県・日本の林業を良くしていきましょう！

二年間を振り返って



2 学年
本間 丈瑠

私の最後の学生生活である林業大学校での二年間の生活はとても楽しく、時に厳しくもあるとても充実した日々でした。思えば私が入寮した当初は不安でいっぱいでした。全寮制ということと同期

や先輩たちと仲良くなれるか、人見知りの私にはとても不安でいっぱいでした。しかし、そんな不安はいつの間にか消え、みんなで食事に出かけたり、夜遅くまでテスト勉強をしたり、お風呂で将来のことや林業について語り合ったりして切磋琢磨し今では最高の仲間となりました。屋久島研修やオーストリア研修、地域行事など様々な事にみんなで一致団結して取り組み、かけがえのない思い出となりましたが、それでも一番の思い出はこの寮で最高の仲間と過ごした二年間の



2 学年 1 月 保健休養学実習（乗鞍高原）

日常だと思っています。これから先、二度とこんな経験は出来ないと思います。ここでの生活を忘れずに、これから先の長い人生に役立てていきたいです。最後に先生方や寮母さん、同期のみんなのおかげでとても楽しく充実した二年間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました！

過激な学生生活



2 学年
渡邊 尚紀

僕の林業大学校での二年間は一言で表すならば「過激」です。

入学早々、屋久島旅行の往きのバスで粗相をしたことに始まり、日々の寮生活の中で様々な過激な体験をしてきました。ある日には縄で柱に括り付けられてパイマミれに なったり、またある日には誕生日プレゼントと称してとん



2 学年 2 月 校外研修（箕輪町）

でもないものが贈られたり、またある日にはトラロープで縛られたり、またある日には掃除機を用途外使用したり、またある日には健全に徹マンしたり：と挙げればきりがありません。中でも麻雀は日夜他の寮生と研鑽しあい入学当初とは比べ物にならないほどの打ち手になったと自負しております。

振り返ってみれば林大での二年間は僕が生きた二十年の人生の中で最も過激で、最も忙しく、最も実りある時間であったと思います。たくさんの仲間に関われ、良い先生に恵まれ、最高の環境で学べたこの二年間を一生忘れません。

保護者の
ページ絵
の
一
言

今思いつく

奥野 久美子



息子が林大へ入学して十ヶ月がたちました。寮生活という不安と、志望した道へと進む期待の入り混じった中で入学式へと向かった日を思い出しています。高二では医療系を志望していたのが高三の課題研究で「木を切りたい。」へと変わっていきまし

なれるよう期待を込めて応援していこうと思います。

林大より更に奥の黒川に私の母の生家があり、子供の頃はバスや父の車で、大人になってからは自分の車で林大の傍らの道を行き来していました。佇まいをずっとながめていた学校に、今息子が通っていることにもしみじみとしているこの頃です。

感謝を忘れずに

小林 輝子

祖父母の影響で、小さい頃から自然に触れていた息子は街より山が好きで、自然と関わる仕事がしたいと林大への進学を決めました。高校二年の時でした。

初めて家を離れることにとっても不安を感じていましたが、今ではどちらが家か分からないと言うほどになっています。

そんな息子は入学して二カ月で大怪我をし、入院と自宅

療養のため三週間ほど学校へ行くことができませんでした。入学したばかりで全てが遅れてしまう、学校へは戻れるのかといった不安ばかりの毎日でしたが、校長先生をはじめ、担任の先生や諸先生方が手厚いサポートをして下さり無事に復学することができました。

学校へ戻ってから先生方や先輩、同級生に助けていただき、この一年間を過ごせたことに本当に感謝しています。ありがとうございます。

林大での二年間はあっという間に過ぎてしまいかもしれません。貴重な体験ができた大切な時間だと思います。

楽しみながら有意義に過ごして欲しいです。そして、周りの人、物、環境すべての中に感謝を忘れず自分の選んだ道をあきらめることなく、一歩一歩進んでいってくださると思っています。

須田 圭二



早いもので、息子が林業大学校へお世話になり一年になるうとうとしております。

平成二十八年度 山地災害防止標語コンクール入賞作品

○奨励賞（一般社団法人 日本治山治水協会長賞）

『ぎ』をつけよう 『ぎ』にしてみよう 『ぎ』を植えよう

長野県 木曽町 岡本 昂大
(長野県林業大学1年)主催 一般社団法人 日本治山治水協会
後援 林 野 庁

(全国二四〇八作品の中から選ばれました。)

当初、普通高校からの進学と言う事で、学業に付いて行けるか大変心配していましたが、先生方及び大学の先輩方の本当に面倒見のよいお陰で、学業や私生活におきましても不安の言葉も一言も無く、むしろ自身の先への目標をしっかりと見つめながら頑張っている様に伺えます。本当に感謝致します。

私共の地元飯山市は、周りが山々で自然豊かで閑静な地域です。が、年々高齢化と過疎化が進んできており、心細く感じています。日本の国土の大半を占める大きな資源である山林に対して、息子自身がどのように捉え、進むべき道を選択していかれるのか、私共親としても時代の移り変わりに伴う動向を大変気にしながら見守っている次第です。

どうかこれからも、木の温もりの様な林業大学の諸先生、学生の皆さん、地域の皆さんに囲まれての大学校生活を、日々感謝の心を忘れずに、自身の目標に向かって一歩一歩頑張っていくと願っています。

出会いに感謝し、 持ち味を生かして

中嶋 竜夫



息子は、幼少期から、自然に関心を持ち、ボーイスカウトの活動にも積極的に参加して、多くの人と出会い、自然に親しむ環境の中で育ちました。そんな息子が、林大を決めた時は、家族皆、納得し、応援し、見守って来ました。あれから十ヶ月、冬休みに息子が帰省した姿は、林大へ送り出した姿とは思えない、頼もしいほどに成長していました。

今までは、何でもやってもらっていた環境から、何もかも自分で判断してやらなければならぬ生活は、きつといろいろと大変なことがあったと思います。しかし、出会った多くの人に助けてもらい、支えられて今の息子の成長があると感謝します。二年間は、あつと言う間で、今年

は、大事な将来を決める年となりますが、林大で、多くのことを学び、吸収し、自分の長所を生かして、人の役に立つてもらいたいと願います。

大自然の中で

森上 里美

縁あって兵庫から木曽の林大にお世話になり早いものでもうすぐ一年になるうとしています。初めて木曽福島駅を降りた時は一年前の受験の折でした。第一印象は何もない不便な所やなあと思いましたが、しかし歩いてみると古い宿場町の風情が残りの町の中に足湯があったりと、若い子供達にとってはもの足りなさを感ずるかもしれません。昭和生まれの私にとってはどこか懐かしくほっと心が癒されました。入学式には来てやれませんでしたが入寮日に主人が行き荷物を運んでもらった先輩方のおかげと行動、挨拶など、いい子達ばかりやっとなめたにほめることのない主人の口から聞きとて

も安心しました。ゴールデンウィークに夫婦揃って行った

時はうつすらと雪を残した御嶽山が美しく感動しました。夏の新緑、秋の紅葉、冬は雪景色と四季それぞれに美しさを見せる自然がいっぱいの木曽。こんな所で学び生活出来ることは幸せなことです。何年か後に、ここが第二のふるさとなることでしょう。あと一年間、技術や学力はもとより人として寮生活や地域の方々との交流などを通じていっぱい学ばせたいところをスポンジのように吸収してひとまわりもふたまわりも大きく成長してもらいたいと願っております。

林大で学んだ事

上野 正俊



林業大学校に入学してあつという間に二年が過ぎました。今まで親が考えもしなかった林業大学校行き、何とか入学できて今度は初めての寮生

活、心配は尽きない事ばかりでしたが、あっさりと林大に溶け込み、学業も寮生活も馴染みやってこれたのも、林大の先生方の温かくも厳しいご指導や、良い先輩にめぐまれたからだだと思います。本当にありがとうございます。本人はここで学んだ事を先輩にちゃんと伝えたいでしょうか？林大の伝統、学業、寮生活、自分が教わった事、感じた事を先輩にしっかりと伝える、それは人の為では無く自分の為でもあると思います。それができればこの二年間で学んだ事、これから始まる新生活に対してもしっかりと対処でき、自分自身の力になると思います。今まで学んだ事がいづどんな時に役に立つかは、これからの自分次第です。事にあたって悩んだ時、迷った時どんな時でもこの二年間の経験は絶対に道を開いてくれます。これからも大変な時は必ずありますが、林大で学んだ事を思い出して頑張っほしいと思います。最後に二年間訳も分からなかった娘をここまで成長させていただき先生方には本当に感謝しております。ありがとうございます。

ありがとう

林業大学校

児玉 宏幸



息子が林大にお世話になるまであまり知らなかった木曽。幸いにもこの二年間で何度足を運んだことだろう。オープンキャンパスに始まり入学式、木曽祭、神輿まくりはもちろんのこと開田高原、赤沢森林鉄道、奈良井宿等の観光地巡りを東京に住む月之助の姉や祖父母までもが楽しむことが出来ました。

光陰矢の如しですが、息子にとって大きな成長の二年間だったと感じています。学校寮生活、アルバイト、地域の活動等で多くの方々とこれまでにない関わりの中で学生生活を謳歌している様子から、大人になりにかけているな、こいつ、という感触に微笑ましくも頼もしさを感じたものでした。

先生、職員の方々、バイト

先や地域の皆様に育まれ、自然豊かな木曽の地で共に遊び、学び、同じ釜のメシを食べた仲間たちとの出会いがあったからこそ、共に成長しあえたのだと思います。卒業生の皆さんがこれからそれぞれに歩む道に幸多かれと願ってやみません。人との出会いを大切にして林業大学校で学んだことを社会の中で生かして前進して下さい。

贈る言葉

中畑 清貴



入学式はついこの間だったか、あっという間の二年間でした。全員が今後の進路も決まって卒業できることを親として喜ばしく思いますと共に、一人の落伍者もなくこ

まで導いて下さいました先生方はじめ職員の方々には本当に感謝申し上げます。

知識が使い捨てられるご時世にあって、実習を通して体得したロープワークや道具の使い方、自身と仲間を危険から守る作業手順等数々の技は林業に携わる者にも、そうでない道に進む者にも生涯に亘って人生の様々な場面で助けとなることでしょう。

卒業生諸君、君達の進む先にはその道の達人がおり、受け継がれるべき知識や技があります。新たな旅立ちを迎える諸君にはスターウォーズ風に言えばこんなエールがふさわしいかも知れません。「スキルと共にあれ！」

林業大学校の

教えを糧に

樋口 寿英



息子は、小学校のときから家族と共に野山を歩き、春は

コゴミ・ワラビ、秋はきのこをよく採りに行きました。高校時代には山岳部の部長を務め、山の美しさと自然の厳しさを体験してきました。「山頂でお湯を沸かして入れたコーヒーを、眼下に広がる雄大な景色を見ながら飲むひとは最高だ！」と常々聞かされました。そんな自然に親しむことが好きな息子が、高三のとき本校の学校見学に参加して、「お父さん、林業大学校に決めた」と目を輝かせて言ったことを昨日のように思い起こします。

一年の屋久島研修、二年のオーストリア研修では、本校だからこそできた貴重な見聞を、インターンシップでは、さまざまな職種の体験、さらに地域のお祭り水無神社例大祭「みこしまくり」や行事にも参加して、多くの人達と交われたことも、これからの人生で役に立つことだと思います。

お陰様で就職も決まり、卒業まで残りわずかとなりましたが、これまでご指導いただいた林業大学校の諸先生方に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

林大にエールを！

三石 政寛



先輩達に温かく迎えられ、入寮・入学してから、早いものでもう二年。

この間の事の様

な気がします。

木望祭で訪れたら、遊びに来てくれた同期生達と接したりと、親も楽しい時間がありました。また、帰省すると、楽しそうに学校の話をする少しづつ遅くなる息子を見て、充実した学生生活を送っている事がよく分かる二年間でした。

偏に、教職員の皆様始め、先

輩・後輩・同期生他大勢の素晴らしい皆様方のおかげと、感謝申し上げます。卒業後は、それぞれの道へ進む訳ですが、林大での繋がりは、一生の繋がりで、宝となるでしょう。

皆様方のさらなる御活躍と御健勝を願って、エールを送り、御礼に代えさせて頂きます。「フレイ・フレイ・林大・ガンバレ・ガンバレ・林大」。



中部森林技術交流発表会

林大での 二年間が強い



第3期卒業
木曾森林組合
事業課長
松原 圭三

私は、昭和五十六年、第一期生の卒業と同時に林大に入學しました。全寮制である不安はありましたが、新たな環境での期待の方が大きかった

再度 「森に学び、豊かな人生を歩もう」



教授
竹内 嘉江

以前に、「ミケーネ文明やローマ文明など多くの古代文明は、森林資源を浪費しながら、発展・衰退していったことが考古学の定説」とお話ししました。

幸いなことに日本列島は、

檜のアドバイス

気がします。林大に入學した理由は、将来林業関係の仕事に就きたいと言う漠然とした理由でした。高校でも林業を勉強しましたが、より林業知識を高めた希望もありました。それにより就職時の選択の幅が広がると思っていました。林大での二年間は、特に現場での実習が好きでした。講義での勉強より眼で見て、体を動かして体感することにより自身には色々身に付

いた事が多かったように思います。全寮制への不安は直ぐに楽しいものと解消されました。林業ではチームでの仕事を行うので「同じ釜の飯を食う」と言う生活は、将来に亘つての財産だと感じています。

私は卒業と同時に木曾森林組合に就職しました。森林組合の広域合併が盛んに行われている時代でした。当時の組合の主要な事業は国有林での

造林や立木販売での搬出間伐でしたので、民有林での仕事はごく僅かでした。民有林主体となった今の状況は、本来の組合のあるべき姿であり大変喜ばしいと思っています。施業の難しさはありますが、達成感があり将来どんな森林にするか考えながら仕事が出ることはやり甲斐そのものです。

林大の卒業生は六百名を超えているものかと思っています。

当然林業界で活躍している人が大勢居る中で、

横の繋がりは仕事をして行く上でかなり重要となっています。会議や研修会などで林大卒業生に出会います。同じ業界で働く仲間として強みを感じます。長いサイクルの林業を考えると世代を超えた人達と議論が出来ることは喜びでもあります。二年間の学生生活は、全ての体験や経験により、将来進むべき道は違っても活きるものだと思っています。沢山の先輩が待つ林業界へ安心して進んで欲しいと願います。

土壌・気象条件に恵まれ、世界的にみても森林の再生能力が高い地域で良質な文化を育んできたので、森林の役割や林業の重要性が強く認識される時代の中で、林大の若い学生達には頭と体の両面から林業の大切さ、森林と関わって生活していくことの素晴らしさを学んでもらいたいと考えていました。

果たして私は、二年間で三十七期生にこの精神を伝えることができたでしょう

か。たぶん、点数評価すれば四十点でしょう。毎日を寮で楽しく過ごし、スマホを触り続け、アルバイトに熱心な若者を教育し鍛えるのは困難なことでした。レポートを課しても適正に提出できる者は六割、尻を何度たたいても反応の無い者もいました。しかし、二十人はそれなりに各自個性を磨きながら成長したと思います。あとの部分は自身で切磋琢磨して、心技体を鍛えていくしかありません

ん。少しは援助してくれる人も周りにはいるかもしれませんが、自分を向上させるのは結局自分自身しかないのです。いい加減にやっつけても何とか過ぎていくと、いつまでも思っているのは甘すぎます。

人生の糧として、「則天去私」「吾唯足知」といった日本的な精神も理解してもらいたいとも伝えましたが、どうだったでしょうか。

兎に角、七十二代横綱稀勢の里のようにゆっくりでもよいので、地道に途中で投げ出

すことなく、一日一日前に進んでいく姿勢を忘れないことを願うばかりです。一所懸命それぞれの職場で、自分の立ち位置を確認しながら「総合力、ウィット、瞬発力」を高めていく努力をしてください。

日本一の林大での二年間は終わりです。林業について広い視野を持ち、地域のリーダーとして夢を抱き、未来の日本を担う人間に成長していただく下さい。二十年後、三十年後、一人前になった立派な姿を見ることを楽しみにしています。

第3回全国林業大学校対抗伐木選手権大会から (3林大の交流協定による技術向上の試み)

■ 大会概要

「相互の交流を通じ技術者養成教育の充実・向上を図る」として交流に関する協定を締結した長野県林業大学校・岐阜県立森林文化アカデミー・京都府立林業大学校は、平成28年11月24日(木)～25日(金)に、長野県塩尻市と木曽郡木曽町を会場に、「第3回全国林業大学校対抗伐木選手権大会」を開催しました。

大会は、初日(24日)、塩尻市にある長野県林業総合センターにて、「日本の森林・林業・木材産業を改革するためには!」と題して、熱気に満ちあふれたグループディスカッションを行い、2日目(25日)は、木曽町の「長野県林業大学校」に会場を移し、枝払い、伐倒、チェーンソー組み換え競技など8種類の林業技術で技を競い合いました。

前回までは各校からの選抜選手による小規模な大会でしたが、今回は参加校の2学年全員が参加する100人規模の大会となりました。

そして、2日目の競技会では、学校対抗の部で、長

野県林業大学校が見事総合優勝を飾りました。

まさしく学校対抗となった今回の大会に向けて、開催前から各校の学生間で練習状況等について情報交換を行ったり自ら工夫したトレーニングを行うなど、学生の競技に対する意気込みは相当なものがあり、その結果、大会前の数か月間で学生の技能が大幅に向上しました。

今回の大会準備に当たっては、学生主体で企画運営を行い、教職員が支援を行う方式で進められました。また、競技会場の整備や大会で使用する木材の調達、そして入賞者への賞品については、近隣の自治体、地元関係団体、大手林業関係メーカーなどの御協力をいただくことができました。

こうした、地域や関係業界の支援のもと学生と学校が一体となって行われた「第3回全国林業大学校対抗伐木選手権大会」は、本校の歴史に大きな一歩を記した大会となりました。

競技種目別学校順位

総合 順位	学校	競技1 クイズ	競技2 張替え	競技3 合わせ	競技4 薄切り	競技5 枝払い	競技6 伐倒	競技7 NASA	競技8 運材	得点 合計
1位	長野	1位	2位	3位	1位	2位	1位	1位	2位	17点
2位	岐阜	3位	1位	1位	2位	1位	2位	3位	3位	15点
3位	京都	2位	2位	2位	3位	3位	3位	2位	1位	9点

競技種目別個人順位

競技：チェーン張替え

順位	学校	氏名
1位	岐阜	清水 郁弥
2位	長野	清水 智也
3位	長野	小口 寛代

競技：合わせ切り

順位	学校	氏名
1位	岐阜	山田御都起
2位	岐阜	伊藤なるみ
3位	京都	大野 龍矢

競技：薄切り

順位	学校	氏名
1位	長野	上野由希菜
2位	長野	児玉月之助
3位	京都	山下 大稀

競技：枝払い

順位	学校	氏名
1位	長野	大野 真裕
2位	長野	橋口 武文
3位	京都	長澤 豊紘

競技：伐倒

順位	学校	氏名
1位	長野	多田 諒人
2位	岐阜	山口 侑兵
3位	京都	三浦 匠

競技：NASA

順位	学校	氏名
1位	京都	河崎 研尚
2位	長野	大野 真裕
3位	岐阜	荒深 直樹

*各競技参加者数は3～9名、学校順位は競技ごとの参加者全員の合計得点で積算する。



枝払い競技：個人優勝の学生（長野林大）は、世界伐木チャンピオンシップの選手のビデオを何回も見て、早朝始業前に練習を重ねてきた。



森林クイズ：日ごろの勉強成果と共に、早押しの反射神経も必要となる。



薄切り競技：厚さ4.9mmという薄切りを達成し個人優勝したのは女性!!（長野林大）

競技大会を終えて、表彰状を前に満足げに並ぶ三林大の学生!

